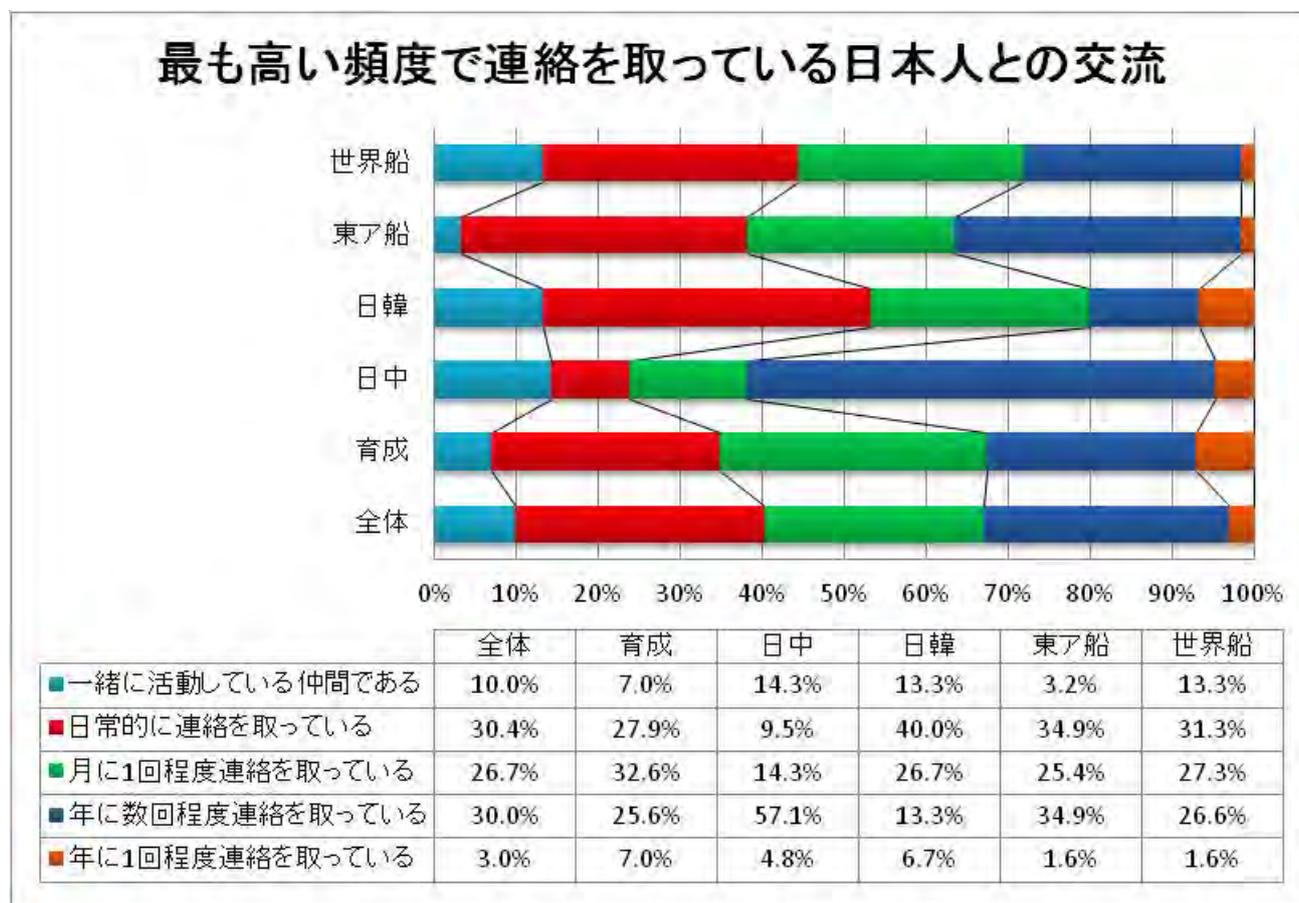


質問16: 質問15で1人以上の方とやり取りをしていると答えた方(ア～オを選択した方)にお伺いします。最も高い頻度で連絡を取っている方との交流の程度はどのようなものですか。

連絡の頻度は、「日常的」(30.4%)、「年に数回程度」(30.0%)、「月に1回程度」(26.7%)の順に多い。また、「一緒に活動している仲間である」とする者も1割存在する。



第5章 内閣府青年国際交流事業への意見

内閣府国際交流事業に関する意見について自由記述欄を設けたところ、合計123件の意見が寄せられた。意見の内容は多岐に渡るが、事業の継続を要望するものが26件、事業の意義についてのコメント18件、広報の必要性を指摘するものが14件と、特に多く寄せられた。

<一部抜粋掲載>

事業の継続要望	
参加後、人生の大切な価値観などが参加青年との交流を通してさらに明確になってきました。これからの人生で様々な形で日本また、諸外国等で貢献活動をしていきたいと考えております。是位、これからも沢山の世界の架け橋をつくる素晴らしい事業を継続してください。	SWY (H23)
個人的にとっても良い経験をさせていただきました。Youthの活動は国連内でも重視されていますし、参加青年にとっても何かしらのインパクトのある経験となり、その後のキャリア形成に影響を与える経験となるので、今後とも継続して頂ければ幸いです。	INDEX (H15)
現在は活動できなくても内閣府事業における経験は各自の中に蓄積しつつ何かの形で現れていくと思います。予算等厳しい問題はあると思いますが、この事業はぜひとも継続して頂きたいと思っています。	INDEX (H15)

私は事業に参加したのは11年前となりますが、いまでもこの事業が続いていることをありがたく思います。この事業に魅力を感じ自分もぜひ参加したいのだと、既参加青年である私に声をかけてくれる方に出会うたびに、事業が継続することを望まずにはられません。時代と共に変化していかなければいけない部分は多いとは思いますが、何らかのかたちで持続してほしいと思います。	SSEAYP (H15)
グローバル化が急速に進むなかで、若者の国際感覚を養成することは、将来の日本の国益を守ることに直結すると思料する。 前記の観点から、本事業は極めて有効であり、今後も予算を維持し継続すべきであると考えている。	SSEAYP (H15)
「人生を変える経験」と言う言葉があるが、私の参加した「東南アジア青年の船」は正にそれがピッタリだった。それまで英語教員でありながら、実際には数えるほどの海外経験しかなく、心の底で自分の英語が伝わるか不安だった私は、この事業を知った時、すぐに応募した。応募した事業が東南アジアというのも良かった。近い距離にありながら、東南アジアは欧米に比べて入ってくる情報が少なく、私にとって未知の地域だったが、参加して初めて彼らがとても豊かな生活を送っていることがわかった。国旗掲揚時など他国の青年が国旗に対して最大限の礼儀を払っているなど、愛国心とは何か、日本への誇りなどそれまで余り意識していなかったことを考えるきっかけともなった。この事業に参加したことが契機となり、地域での日本語教室等のボランティア活動に現在も参加しているし、生徒には私の経験を話すことで、彼らが海外に飛び出す機運を醸成している。そして私も今年から2年間、青年海外協力隊員としてウガンダで過ごす。自分自身学び続け、生徒に努力することの大切さなどを行動で示せたらと思う。直接的な数字で費用対効果を計ることは、こういう事業においては不可能に近いものではあるが、私がこうして後進に自分の経験を話すことで彼らの行動に影響を幾ばくでも与えることができれば、こういう事業に政府が税金を投入する意味があると思い、日々行動している。	SSEAYP (H20)
何ごとにおいても短期的な効果が求められる傾向のある昨今にあって、日本と東南アジア諸国の関係を長期的に力強く底支えする『東南アジア青年の船』事業の継続を切に望みます。	SSEAYP (H20)
日本の代表として、他国青年と様々な経験を共有することは、学校教育にも勝る成長の機会だと思います。特に船事業は、船という特殊な空間の中で自分自身や仲間と長期間にわたって向き合うため、自分の新たな可能性に気づいたり、課題を克服するのに非常に役立ちました。築いた友好関係からも大きな刺激を受けました。今後も長く継続されることを望みます。	SSEAYP (H20)
私が参加させて頂いた東南アジア青年の船は、非常に有意義なプログラムだと感じている。 参加して2年以上がたったことで自分を含めた他の参加青年の成長やネットワークを生かした活動など、年月を重ねることで顕在化してきている。 プログラム内での経験、またその後の人生の選択は個性が高いため、直接的な効果が何であるか検証しにくいかもしれない。しかし一人一人の参加青年の中で個別具体的な効果が得られていると感じる。今後も事業が継続されることを願っています。	SSEAYP (H23)
これからも永続的に事業を運営してほしいが、同じ体制、同じプログラム、同じ予算では続かないだろう。参加青年募集や事業報告は、より多くの国民に知らせ、信頼性を高め、事業の知名度を上げる必要があると考える。OBOGの協力を得ながら、宣伝の携帯、基盤、ネットワークを構築してほしい。また、社会人が参加しやすいような配慮も必要だと覆う。	SSEAYP (H23)
若い人たちが海外に行ったり、外国人と交流することだけが大切とは言いませんが、彼らにとって様々な経験をずる機会があるのはとても有益なことだと思うので、これからもこの事業を続けていってほしい。	SSEAYP (H23)
子育てと同じように、長い目で見れば必ず成果は出ていると思います。 ただ予算もあります、廃止になる事なく、形は変えても存続してほしいと思います。	SWY (H15)
世界青年の船事業の参加を通して、日本、海外の様々な国の青年と出会い、寝食を共にすることで、普段の生活では経験できないことをたくさん経験でき、家族だと思えるほどの仲間と出会うことができた。この事業に参加後、ほとんどの青年の人生をより実りあるものにしていくという確信があるので、この事業が続くことを切に願っています。	SWY (H15)
内閣府事業で学んだことは、私が現在の公共の仕事に従事するに至った過程で存分に影響され、発揮されてきました。1人でも多くの有望な若者の育成のために、ぜひともこの事業の継続を熱望します。	SWY (H20)
内閣府事業によって今のわたしがいるといっても過言ではありません。今後も事業が継続することを心から願っています。	SWY (H23)
内閣府事業に参加して私の人生は大きく変わりました。社会のために自分は何ができるか。常に念頭において社会	SWY

で働いていく所存です。ぜひこれからも永続的に続いて欲しいです。	(H23)
この事業の経験は、直接仕事等に役立つわけではなくても、人生においてはプラスになっていると強く思う。よって未来の日本のためにも、投資し続けてほしいと思う。	韓国 (H23)
非常に良い青年育成プログラムだと思います。是非今後もリーダーシップを発揮する青年の育成の機会を継続していただきたいと思います。	中国 (H15)
近年、日中の領土問題がきっかけで、交流事業が中止や延期になったことがあった。言うべき事はしっかり言うべきだと思うが、一方で、交流関係を保ちたいと願う人々もいるわけで、事業が今後も一般の人々にチャンスを与えてくれるよう、続いてゆくことを望む。	中国 (H20)
国を代表するという意識が日本への誇りや愛国心をあらためて再認識することにつながり、その結果社会に貢献したいという気持ちがわき起こる。そんな貴重なプログラムを今後とも継続してほしい。	SSEAYP (H23)
意義	
内閣府の派遣事業を通し、自分で考え、また自分でできないことは人に協力を依頼し、立場の違う人間とのコミュニケーションを避けない姿勢を学ぶことができました。自分で動くことでしか学べないものは本当に大切な財産であると考えます。	INDEX (H20)
私はこの事業に参加できたことを誇りに思っています。素晴らしい仲間、自信、将来への希望を得ることができました。今後もより多くの青年がこの事業に参加し、自分のネットワークや考え方が広がる体験をして欲しいです。事後活動にも継続的に関わっていきたくと思っています。	INDEX (H23)
外務省や外国政府が実施する類似の国際交流プログラムに参加したことがありますが、事前・事後研修を行い、事後活動のサポートをもフォローする同窓会組織があり、プログラム全体が青少年育成の観点から実施されているのは内閣府事業だけです。外務省主催のものは設備面では豪華であるものの、アイスブレイクもなく、活動の趣旨を理解している運営委員がないため、参加者同士の一体感は醸成されにくく、また参加後のフォローがないため「行って帰ってきて終わり」になってしまいがちです。事前・事後研修、ならびに同窓会組織の運営には大きなコストがかかっていると思いますが、プログラムを実りあるものとするために不可欠なものです。厳しい財政状況ではあると思いますが、本事業がわが国の発展に寄与しているのは疑問の余地もありません。私自身も、本事業で学んだことを社会に還元していくと同時に、引き続き事業の維持と発展に貢献していきたいと思っています。	INDEX (H20)
20代にこのような経験をさせていただいたことで、世界が広がりました。これからも、このネットワークと経験を生かし、生徒と共に、よりよい社会をつくるために頑張っていこうと思っています。	SSEAYP (H20)
東南アジア青年の船に参加し、日本と世界に対する興味や関心がさらに深まり、国際交流が日常にとけ込みました。ここまで濃密な時間と経験を共有できる事業が、国家事業として行われていることを誇りに思います。内閣府の事業は、どんな形であれ続いて欲しいし、せっかくの税金が青少年の育成や、国際交流にどんどん使われて欲しいと思います。既参加青年として、次世代のためにできることをしていきたいです。	SSEAYP (H20)
内閣府事業に参加することにより自信や誇りを持つことが出来た。 参加青年としてだけでなく、企画・運営側で内閣府事業に関わることが出来て良かった。 内閣府事業の特質として、日本代表を強く意識させている点が挙げられる。 事業の最中はそれが当たり前とされるが、事業後は一人の日本人としてどのように活動するかが問われる。事業後に参加青年同士が集まって活動するのはもったいない気がする。一人一人の参加青年が地元の地域活動に貢献しつつ、ある機会に参加青年同士が集まり刺激を与えあうのが望ましいといえる。事業の最中に日本代表といった肩書きを持てるのは大変感謝すべきことである一方、事業終了後は、日本代表ではなく一市民として、どのように貢献できるかを考えるよう切り替えが求められる。	SSEAYP (H23)
この内閣府事業に参加する事によって人生の幅が確実に大きくなったと感じます。短期間であっても密度が高い共通体験をする事によって、私の人生における生涯の友、結婚相手を見つける事が出来ました。この事業で深い感動を得る事が出来ました。参加された多くの外国青年達も日本は素晴らしいと好感を持ってきています。私自身も日本やこの事業は素晴らしいと胸をはって言えます。この恩を社会に返さなければとよく考えます。この事業に参加させて頂き本当にありがとうございました。	SWY (H15)

<p>国という単位で行ってもらっている事業ならではの規模での経験ができるものとして、とても貴重で価値の高い事業だと思います。しかも、参加して終わりではなく、むしろ事業終了後にネットワークがつながっていくことで、いつまでも成長し続けられると感じます。ただ、この事業の価値の高さを、既参加者以外に伝えることが、自分も含め、なかなかうまくいっていないように思い、もったいないと思います。</p>	<p>SWY (H20)</p>
<p>世界青年の船事業に参加したが、これは決して民間では創り出すことが出来ない事業である。理由は内閣府事業は数値で測れないものにも意義を見出せば投資できるからである。それが政府の役割であると私は思う。成長や変化を完璧な数値で表すのは難しい。よって民ではカバーできない。だが教育には投資しなければならない。内閣府事業は数値では測れないが必ず必要となるものに投資してほしい。</p>	<p>SWY (H23)</p>
<p>今の私の原動力は、間違いなく二年前に参加した「世界青年の船」事業での経験です。あの時に感じた衝撃と感動は今でも私を前進させてくれていて、いつも背中を押してもらっています。「世界青年の船」事業は、まさに人生を変える旅でした。勇気を出して飛び込んで本当に良かったです。このような素晴らしい機会を学生時代にいただいたことに感謝しつつ、これから少しずつ社会に還元していきたいと思っております。</p>	<p>SWY (H23)</p>
<p>私は様々な価値観を持つ人々とともに過ごした経験は、表面的な部分だけでなく、潜在的な国際人としての意識を植え付けると感じた。その意識は一生を通して生き方や人格に大きな影響を与え、結果的に日本への貢献につながっていくことを疑わない。この事業の存在意義は大きい。</p>	<p>SWY (H23)</p>
<p>現在 49 カ国以上の学生と共に学んでいます。世界青年の船での経験が大いに役立っています。また、ほかの国の学生に聞いても、このようなプログラムはほかに類似するものを知らないようです。私はベネズエラに、現地のOPY(海外の参加青年)を訪れたのですが、彼らはその経験を活かし、現在は日本と現地をつなげる活動をしています。彼らの活動を目の当たりにして、既参加青年と、彼らの周りに集まる数多くのベネズエラ人たちが、(日本のいいところだけでなく日本の抱える問題についての知識を持ちつつも)日本を深く愛し尊敬してるかを認識し万感の思いでした。日本のソフトパワーはすごいと思いますし、このような活動によって、つちかわれているのだと実感しました。</p> <p>まさに日本にしかできないプログラムでもありますし、これからの日本、世界に必要なプログラムだと思います。</p>	<p>SWY (H23)</p>
<p>限られた空間で寝食を共にすることがこれほどまでに深い絆と友情を築くことができ、本当に私自身が驚いている。海外へ行くプログラムに他の団体で参加しましたが、船で生活することは体験しないとわからない貴重な経験でした。特に海外青年については、今まで遠い国という意識がなかった私にとって、〇〇の住む国という感覚になり非常に世界を身近に感じる事が出来るようになりました。そして、下船後も常に刺激を与えてくれる仲間とこれからも繋がっていきたいと思います。そして、これからも多くの青年がこの貴重な体験を出来ることを望みます。</p>	<p>SWY (H23)</p>
<p>内閣府事業への参加は、私の人生において大きな転機となりました。そこで得た経験や人脈は、一生の財産です。また、「内閣府という権威ある機関が主催している」という点により、私の経験への客観的評価が高いです。やはり内閣府は人々に信頼されているという印象を受けました。これからは若い世代に、国際交流の機会を提供し、グローバル人材の育成を続けて頂きたいと考えております。</p>	<p>SWY (H23)</p>
<p>内閣府事業に参加したことで、国際交流が身近になった。また、異文化に触れること=国際交流ではなく、異文化に触れること=人と関わること(日本人同士であっても、身近な人であっても)、という観点を持つことにより、多角的な視点を持つことができるようになったと感じる。</p>	<p>SWY (H23)</p>
<p>広報の必要性</p>	
<p>公的事业ではどんな良い事業も、結局「知っている人しか知らない」事業に終始している。営利企業が参加者を募る際は、もっと必死で広報をしているものだ。孤児院の子ども達も参加出来るような事業であり続けて欲しい。</p>	<p>INDEX (H15)</p>
<p>私自身、この事業を通して若い頃しか味わえない貴重な経験と、生涯を通しての仲間を数多く得ることができ、とても感謝しております。</p> <p>目に見えた形での成果をお見せできる参加者は多くはないかもしれませんが、多感な時期にこのような事業に参加できることは、参加者にとって非常に大きな経験で、何らかの形で社会に還元されていると確信しております。私自身、今後も、事業の参加者として貢献できればと考えております。</p>	<p>INDEX (H20)</p>
<p>本事業を知ったきっかけが、既参加者からの紹介がほとんどだったように感じる。もっと多くの人に知ってもらい機会があってもいいと思う。もっと認知を高め優秀な人材が集まるようになればいいと思う。あまり個人的に行くような機会がない国こそ、日本の学生を派遣し続け、将来的には国益につながるようなことになればいいと思う。</p>	<p>INDEX (H20)</p>
<p>もっと企業の若手社員育成という観点から積極的に企業の人事担当へ広報活動をし、社会人が参加しやすい環境作りに力をいれて欲しい。</p>	<p>SSEAYP (H23)</p>

多額の国家予算を投じるプログラムにしては、国民全般への認知度は極めて低く、応募者も少ない為競争倍率が低いという事実は問題視すべきである。せつかくのプログラムなので、より優秀な人材を派遣すべく、広報活動により力を置くべきであると思料する。	SSEAYP (H23)
事業に参加し本当に素晴らしい経験を得ましたが、既参加青年を通じたもの以外に目立った広報活動を見たことがないというのが本音です。私の周囲の友人で既参加青年と関わりを持たない人は、内閣府事業の存在を全く知りませんでした。文科省と連携した中学や高校への積極的な広報など、対象年齢になる前の世代へのアプローチが今後必要かと思料します。	SSEAYP (H23)
大変素晴らしい事業であるにも関わらず、社会的認知度の低さが未だに課題である。広報等にあたり従来のやり方を維持するだけでは限界があるのではないかと。例えばマスコミを乗船させ、公共の電波に乗せるなどし、既参加青年から繋がるネットワークを超えて広く一般に知らしめていく新たな一策が必要であると思う。ぜひ、事業を日本中の若者に知ってほしい。	SSEAYP (H23)
NGO 主催の他事業と間違われることが多々あり、事業を知らない人が多くいるので、広報活動を大々的にやったほうが良いと思います。(募集の時期だけでなく、通年)	SWY (H15)
より広報にも力を入れて、応募者を増やすことで事業参加者のレベルアップを図ってもらいたい。	SWY (H15)
過去の既参加青年の方々は日本に限らず、社会で活躍されている方が多くいて、仕事だけでなくプライベートでも「実は世界船に卒業生です」という声を聞く度に、事業のネットワークの広さを感じます。中には雑誌やイベント、企業の採用 HP でインタビューされている方も多くいると思うので、もっと事業名を記事の中で取り上げられるように既参加青年のPR力に働きかけるように主催者側から働きかけてもいいと思います。個人の良い経験として機会を頂くだけでなく、社会に還元することも含めて事業への参加と考えていますし、個人的にもキャリアを積む中で、世界青年の船の事業名とそこから学んだことを発信していきたいと思っています。	SWY (H20)
募集や報告会の広告が、もっと魅力的かつ多くの人に知ってもらえる方法を見つけれれば、さらにこの事業が発展し、より多くの若者にとってかけがえのない経験になるのではないかと思います。内閣府事業がこれからも素晴らしいものであるよう祈っています。	SWY (H23)
今でも参加してよかったと思っていますし、なかなか知り合えない仲間ができた素敵な事業だと思います。しかし、事後活動として説明会を行うようになり、知名度の低さをいつも感じます。もっと私たち Ex-PLY が積極的に活動を行い、素晴らしさを広めなくてはならないと感じます。	SWY (H23)
事後の成果、その他	
事業に参加している間、よりもその後の生活、活動に大きな影響を与えてくれた事業に感謝している。育成事業は、期間の短い事業である。海外に行っている期間はほんの数週間だ。それよりも、いま数年がたって、育成事業のみならず、IYEO から紹介される他機関による多事業への参加などによって、自分の積極性であるとか、前向きに頑張ろうという気持ちは高められていっているな、と思う。それがお給料を頂く仕事や、人からの評判に繋がってなくても、いつか活かすことができたと思う財産になっている気がする。	INDEX (H23)
内閣府事業での経験は、事業期間中に学ぶことも多いが、むしろ事業後にゆっくりと効果が出てくるように思う。短期的な視点だけでなく長期的にみると効果の高い事業ではないかと思う。日本人青年と外国参加青年の事業に対する姿勢が異なるのは少し気になる。日本人青年たちは、外国参加青年たちと対等なレベルで議論したいという姿勢が多いのに対し、一方で、外国参加青年たちは、国際経験の少ない日本人青年のために(教材として)招待され参加しているという姿勢が強い。残念ながら事実ではあるが、同じような思いで課題に取り組んだほうが、日本人青年にとっても外国参加青年にとっても良いのではないかと思う。	SWY (H15)
内閣府事業はすべての参加者に何でも出来る機会を与えてくれる場であり、参加して以降、ネットワーク、知識、リーダーシップ、企画力、課題解決力全てにおいて成長することができました。この効果を最大に発揮できた方だと自負しています。このような大きな機械を与えてくれた内閣府事業に感謝をしていますし、今後もこのチャンスを多くの人に与えられるよう事業を継続してほしいと思います。	SWY (H20)
参加する前と後で著しく変化したのは、海外と日本のそれぞれに対する意識・関心の高さです。特に海外に対しては、国という認識から「〇〇(友人)がいる地域」という身近な存在になりました。そのお陰で、そこで何か素敵なことや楽しいことが起きれば自分も同じく嬉しく、逆に事件や紛争が起これば本当に辛く悲しく感じます。エジプトの「アラブの春」やトルコのデモ、スペインの暴動、そして今まさに起こっているベネズエラの暴動も以前でし	SWY (H23)

<p>たら毎日のニュースの一つとしてそれほど気にも留めなかったと思います。しかし、現在ではそれぞれのニュースにとっても心を痛め、何か自分にできることはないかと考えるようになりました。</p> <p>世界を繋ぐという意味でこの内閣府事業は本当に素晴らしい事業だと思います。少しでも多くの若者がこの事業に参加し、日本のため世界のため活躍してくれることを願っています。(もちろん私も頑張ります！)</p>	
<p>意見・改善点提案等</p>	
<p>航空機派遣事業を政府が税金で行う意義は現代においてはかなり薄れているのではないかと感じています。個人で海外旅行に行くのもかなり一般化してきているし、民間の交流プログラムも豊富に存在する。一方で、世界船のような事業は民間では難しい面があり、こちらは継続する価値があると思う。</p>	<p>INDEX (H15)</p>
<p>内閣府国際交流事業の関係者外に向けた事後活動が少ないと感じています。</p> <p>「事業に参加した私にしかできないこと」をひとりひとりが世の中に示していけたらいいと思います。</p>	<p>SSEAYP (H23)</p>
<p>現状、事後活動においては内閣府の管轄を離れ外部団体が取りまとめ、事後活動への参加は任意によるものとしているが、それでは事業参加による社会貢献度の向上を測ることはおろか事業効果を測ることも困難と感じている。任意によるものではなく、より強固でかつ継続的に活動に関わることができる体制作りが必要ではないでしょうか。</p>	<p>SSEAYP (H23)</p>
<p>事業の性質上、費用対効果の数値化・見える化が困難であることは承認している。参加させていただき、官製であるが故の無駄・非効率・消化不良に接し、批判を受ける要素も相当であることを理解した。</p> <p>血税を投下する以上、研修スキルの豊富な民間企業に一括委託し、官は対外公的機関との初期設定と事後対応に特化して費用対効果を高めるべきではないか。</p> <p>なお本事業は市民レベルでの国際相互理解の芽と水脈であり、主催主体が変わっても絶ってはならない。</p>	<p>SWY (H15)</p>
<p>内閣府事業全般にいえることですが、KGI、KPIが見えないため、明示化して、効果測定してほしいと感じます。</p>	<p>SWY (H20)</p>
<p>参加したことで、目標とやる気は高くなり、なにかしたいと思う人は、多いようである。しかしどうアウトプットしたらいいのかと立ち止まっている人も多い。</p> <p>参加後にフォローアップの仕組みを作ればその後の成果を底上げされると思う。</p>	<p>SWY (H23)</p>
<p>もっと期間を長くしてほしいと思います。船内活動での期間が最低1ヶ月以上長くないと、心理的、精神的、多文化の成長ができないため、その期間を与える必要があると思います。その期間によって、より多文化に対応できる人材の育成と社会貢献への活動を実践できる人材の育成、そして心が育つのではないのでしょうか。</p> <p>それと、世界青年の船の事業の場合は海外青年が少なすぎます。</p> <p>また、日本人が参加する前に海外青年だけで、地方プログラムに参加しているため、交流度合いに差があり、それによって、交流するのが難しくなっているように思います。</p> <p>それと、交流の中で後に日本人同士の交流というものを強化することで、より事後活動へのアイデアと仲間ができるようになっていっていると感じます。</p>	<p>SWY (H23)</p>
<p>参加青年が同じような人に集中している。</p> <p>学生は東京・名古屋・大阪といった大都市の名門大学学生、社会人は公務員か大企業の社員に偏っており、派遣先で意見交換しようにも多角的な視野に立った意見が乏しいように思える。</p> <p>学力試験があるので難しいとは思いますが、もう少し地方出身者や中小企業、自営業者にも参加できるような募集の仕方を考えていただきたい。</p>	<p>中国 (H23)</p>
<p>内閣府の青年国際交流事業自体が、元々の参加青年のスペックの高さに頼っているところがあるように思われる。</p> <p>優秀な人間が多いのだから、それなりに満足度が高く、成果は出て当然だが、事業による効果か、本人の資質に拠るところなのか、判別は難しい。自分が参加した時も、多くは留学経験のあるような参加者ばかりだったので、外国人慣れしている人間が参加しても、楽しくて成果が出て当然だろうと思った。むしろ海外と接する機会の殆どないような人(地方公務員等)、金銭的な余裕がなくて海外の世界を知ることのない青年を対象にした事業があれば、それこそ、参加者の成長の度合いや学びの幅も大きく、機会の均等という観点からも、有意義だと思う。</p>	<p>SSEAYP (H23)</p>